

# 一人の犠牲者も出さないために

小浜市でも、全国で災害が相次いでいることから、防災士の活動環境を整えようと、12人の防災士が市と協力して、昨年4月から、本会の設立準備を始めました。最終的には有資格者など55人の賛同者により、今年8月に本会を立ち上げることができました。



「小浜市防災士の会」設立総会の様子(8月1日・働く婦人の家)

市内には、山・川・海の配置や土地の高低などといった地勢の異なる地域が混在しており、それぞれで災害の危険性も異なります。そのため、各地域に合わせた防災対策があるのが理想的です。本会では、防災士活動の究極の目標である「自然災害で一人の犠

牲者も出さない」を目指して、地域の災害リスクや過去の被害状況、防災の心構えなどについて周知し、防災意識を啓発していきます。新型コロナウイルス対策と避難の両立など、日々新たな課題も生じていますが、行政とも連携してこうした課題に向き合い、より良い防災対策を構築していければと思います。市民の皆さんにメッセージをお願いします。

小浜市防災士の会を結成した経緯について教えてください。

これまで、防災士の資格があっても、個人ではなかなか習得した知識や技能を生かす機会がありませんでした。

こうした現状を受けて、防災士同士のつながりを築き、より大きく地域社会に貢献しようと、全国の市町村に「防災士の会」が設立されています。

小浜市でも、全国で災害が相次いでいることから、防災士の活動環境を整えようと、12人の防災士が市と協力して、昨年4月から、本会の設立準備を始めました。最終的には有資格者など55人の賛同者により、今年8月に本会を立ち上げることができました。



小浜市防災士の会 会長  
なかつか えいいち  
仲塚 英一さん  
(79歳・口田縄)

会の目的や活動内容について教えてください。

大枠では、防災士同士のつながりを作り、活動を支援することのほか、防災教育や市民の防災活動支援などを目的としています。

まだまだ動き出したばかりですが、まずは会員同士の交流を深めながら、今後の具体的な活動について話し合っているところです。

災害に備える上で重要なことは何だと思えますか？

自然災害から身を守る最初の一歩は、災害を甘く見ないことと、正しく恐れることです。

ご存知の通り、災害が起きるたびに、多くの犠牲者が出ます。「まだ大丈夫」と避難しなかったり、増水している川に不用意に近づいたりすることがないようにして、できるだけ早く確実に、危険を遠ざける行動をとってください。

同時に、デマや根拠のないうわさ話などで災害を過剰に恐れること、かえって危険を招きます。テレビやラジオなどで正確な情報をしっかり確認して、恐れすぎず、かつ油断せずに、災害を「正しく恐れる」ことを意識してもらいたいですね。

仲塚さんは、なぜ防災士になろうと思ったのですか？

昭和28年、私が小学6年生の時に、市内で42人の犠牲者を出した台風13号による被災を経験しました。

橋げたにたまった流木によって川がダム化し、本流や支流が氾濫して、近所一帯が川のようになっていた光景を今でも覚えています。

60年以上が経って、あの災害が市民にとって遠い過去になりつつあることや、防災意識の薄れを感じ、何とかしたいと思ったのが、防災士になつたきっかけです。



昭和28年の台風13号により流失した、当時の湯岡橋の様子

「防災士」とは？

防災に関する十分な意識と一定の知識・技能を修得し、地域防災力を向上させる活動を期待される人として、日本防災士機構により認証された人のことです。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災で、崩れた建物に埋もれた人々を救出する際、自助・共助による救助活動が大きな役割を果たしたことを教訓に生まれました。

令和2年9月末現在で、全国で約19万8000人、市内では約200人が認証され、防災意識の啓発や被災者支援などの活動に取り組んでいます。

今月は、地域の防災力を向上させるリーダー的存在としての活躍が期待される「防災士」について紹介するとともに、今年8月に結成された「小浜市防災士の会」の仲塚会長に、災害に備える上で大切なことを聞きました。

## 大規模化する自然災害

近年、地震や台風などの自然災害が相次いで発生し、全国各地で大きな被害をもたらしています。

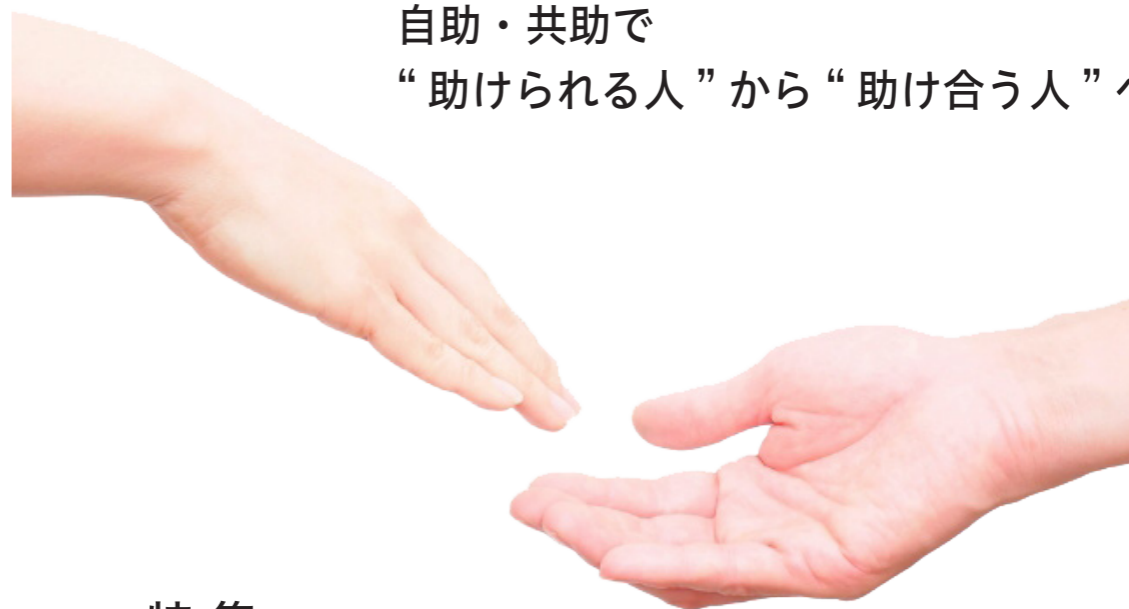
今年の7月に発生した「令和2年7月豪雨」では、熊本県を中心に全国各地で約1カ月にわたり断続的な豪雨に見舞われ、死者・行方不明者合わせて86人を出すなどの被害を受けました。

この豪雨に代表されるように、近年の自然災害は、大規模・長期的に被害をもたらす傾向が強まってきているほか、いわゆる「ゲリラ豪雨」のような突発的な災害も増えています。

## 「自助」「共助」が防災の要

こうした災害による被害を防ぐ、あるいは軽減するためには、一人ひとりが、自分や家族の命をみずから守る「自助」、地域や職場で助け合う「共助」の意識を持ち、日頃から備えるとともに、行政機関やさまざまな団体とも協働して、地域全体で防災力を高めることが大切です。

## 自助・共助で “助けられる人”から“助け合う人”へ



# — 特集 — 小浜市防災士の会が設立

■問い合わせ 生活安全課 ☎64・6006

今月は、地域の防災力を向上させるリーダー的存在としての活躍が期待される「防災士」について紹介するとともに、今年8月に結成された「小浜市防災士の会」の仲塚会長に、災害に備える上で大切なことを聞きました。

### 「防災士」とは？

防災に関する十分な意識と一定の知識・技能を修得し、地域防災力を向上させる活動を期待される人として、日本防災士機構により認証された人のことです。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災で、崩れた建物に埋もれた人々を救出する際、自助・共助による救助活動が大きな役割を果たしたことを教訓に生まれました。

令和2年9月末現在で、全国で約19万8000人、市内では約200人が認証され、防災意識の啓発や被災者支援などの活動に取り組んでいます。